

Shokuhin News -2008 June-

神戸大学 農学部 生物機能化学科 食品・栄養化学研究室

〒657-8501 兵庫県神戸市灘区六甲台町 1-1 電話 078-803-6553 Fax 078-803-6553

e-mail: shoku@kobe-u.ac.jp http://www.kobe-u.ac.jp/shokuhin

News

博士前期課程、 研究経過報告会開催

昨年度の農学研究科発足に伴い、博士前期(修士)課程の学生には、研究経過報告会で発表を行ったことの認定を受けなければ、学位論文の提出できないという研究科規則ができた。そこで、応用生命化学講座は、修士課程2回生を対象に、6月6日(金)、神戸大学百年記念会館で研究経過報告会を開催した。

応用生命化学講座の報告会は、各学生が研究ポスターを作製し、ポスター前でのフリーディスカッション1時間、口頭発表8分間(発表6分、質疑応答2分)というスタイルで行なわれた。

認定を受けなければ、修士3回生への進級(?)が決定することもあり、全ての学生が真剣に取り組み、もちろん、食品・栄養化学研究室からも全ての M2が参加した。発表題目は以下の通り。

上田 啓輔
「DNA 酸化産物8-OHdGの生成機構の解明」

田中 麻貴
「6-メチルスルフィニルヘキシルイソチオシアネートの細胞周期開始抑制効果に関する研究」

谷 芳能
「*Pueraria mirifica*に含まれるミロエステロールのエストロゲン様活性の解明」

中林 秀郎
「カフェイン及びその代謝物の肥満予防効果に関する研究」

吉村 和人
「腫瘍細胞にアポトーシスを誘導するフコキサンチンの標的タンパク質の解明」

前田 太史

「昆布フコイダンの免疫調整機能の新規構築腸管免疫モデル系での解明」

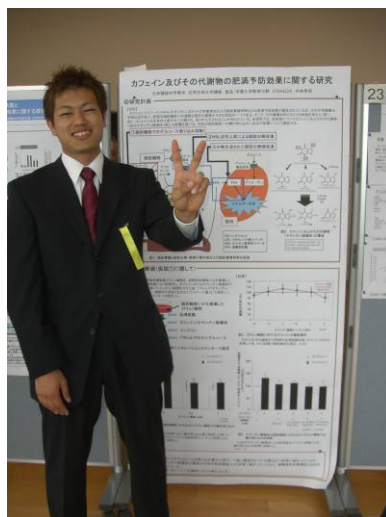
崔 春蘭

「フコキサンチンの美肌効果に関する研究」

研究室を代表して中林が研究経過報告会の感想をひと言。

準備は大変でしたが、ご指導いただいた先生方に感謝しています。また、当日は他分野の先生方からのご意見をいただけた、他の学生と情報交換することもでき、とても有意義な報告会でした。

中林 秀郎



発表を前に余裕を見せる中林(M2)

応用生命化学講座主催 若手教員の講演会

応用生命化学講座主催の若手教員による講演会が、6月20日(金)、農学部B101教室にて行なわれた。橋本助教が幹事ということもあり、研究室の学生は懇親会の準備に奔走。飲み物や寿司の手配、そうめん、チャーハン、枝豆、酢豚、サラダの調理など。特に教授会が行なわれている会議室の隣の部屋で、酢豚を調理し、農学部事務と副研究科長から

苦情が出るなどのハプニングもあったが、無事に懇親会を行なうことができた。

なお、講演会は、西谷洋輔助教(自然科学系先端融合研究環・糖鎖機能化学)、木村行宏助教(自然科学系先端融合研究環・環境分子物理化学)、福田伊津子助教(食の安心・安全科学センター)の3名の先生方に、今までの経歴や経験、研究内容について、ご講演いただいた。



懇親会で挨拶を行う西谷助教。

上田啓輔(M2) シンポジウムデビュー

第61回日本酸化ストレス学会学術集会在、6月19日(木)・20日(金)に国立京都国際会館アネックスホールにて開催され、上田啓輔(M2)がシンポジウムで研究発表を行った。学会事務局により、一般演題からシンポジウムに変更されてのことであった。



発表4時間前にも関わらず既に不安を隠せない上田(M2)



大変緊張した面持ちで発表を行う
上田



発表後余裕を取り戻す上田

発表を終えた上田が感想をひと
言。

今回はこのような大舞台での発表という、貴重な機会を与えていただき、大変勉強になりました。発表前は極度の緊張により、生きた心地がしませんでした。無事帰還してきました。発表の直前まで『愛のムチ』でご指導いただいた金沢先生をはじめ、励ましてくれた同期や後輩に感謝の思いでいっぱいです。本当にありがとうございました。

上田 啓輔

編集後記

今回、同期の上田(M2)が堂々と発表を行いました。今度は私も研究成果をご報告できるようがんばりたいと思います。

前田 太史

論文・学会発表

学会発表)

○上田啓輔、後藤美保、藤原慎司、松山佳世、米谷俊、橋本堂史、金沢和樹「チミジンの過酸化産物を介する 8-OHdG の産生」、第61回酸化ストレス学会学術集会、2008年6月19日・20日、京都国際会館(京都)、講演要旨集 p.14